

ONKYO®

AV アンプ

SA-L3

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書
とともに大切に保管してください。

箱を開けたら、まず

各部の名称とはたらき

接続のしかた

接続した機器を楽しむ

サラウンドを楽しむ

いろいろな操作

その他

特長

SA-L3は、ご家庭のTVラックに無理なく入るリビングサイズのAVアンプです。

- 定格出力 (6 Ω ・1kHz・0.6%THD) :
フロント 22W+22W、センター 22W、
サラウンド 22W+22W
- 高速処理と信頼性に優れた24bit DSPチップ採用
- 音声信号の大きさの基準となるグラント電位の安定化
- ドルビー^{※1}デジタル&ドルビープロロジックIIデコーダー、DTS^{※2}デコーダー、AACデコーダー搭載
- アコースティックコントロール
- サブウーファープリアウト
- 6つのオーディオ入力と2つのオーディオ出力端子装備
- 耐熱設計の薄型電源トランス
- アルミニウム製押し出し大型ヒートシンク搭載
- デジタル入力端子として、光端子3系統装備
- オンキヨーオリジナルサラウンドモードは洗練された5モード（オーケストラ、アンブラグド、スタジオミックス、TVロジック、オールチャンネルステレオ）に厳選し、ナチュラルな音声作りを実現
- レイトナイト機能
- RI EX^{※3}：(RIオーディオコントロール端子) 対応

^{※1} ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、プロロジック、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

^{※2} 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。

“DTS”、“DTS Digital Surround”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

^{※3} はオンキヨー株式会社の商標です。

AAC パテントマーキング

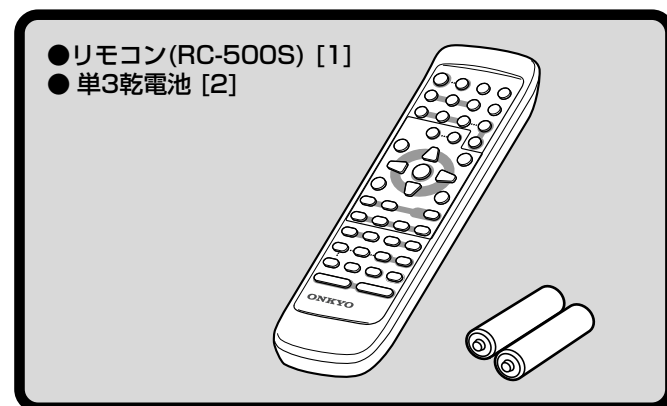
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433
5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236
4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/
02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888
08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238
5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654
5,548,574 5,717,821

付属品を確認する

本機には以下の付属品が同梱されています。

お確かめください。

[] 内の数字は数量を表わしています。



● リモコン(RC-500S) [1]

● 単3乾電池 [2]

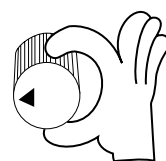
● 取扱説明書（本書）[1]

● 保証書 [1]

音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



メモリー保持について

本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したスピーカー設定やリスニングモード設定などを停電時などに保持するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

目次

箱を開けたら、まず

特長	2
付属品を確認する	2
目次	3
オーディオ機器の正しい使いかた	4
リモコンを準備する	9
DVD ホームシアター 早わかりガイド	10

各部の名称とはたらき

本体前面	12
表示部	13
本体背面	14
リモコン	15

接続のしかた

オーディオ機器を接続する	16
スピーカーを配置する	18
スピーカーを接続する	19
RI端子付きオンキヨー製品を接続する	20
本機の電源をつなぎ、電源を入れる	21

接続した機器を楽しむ

接続した外部機器を再生する	22
オンキヨー製のオーディオ機器を付属のリモコンで操作する	23
すべての入力に共通したいろいろな機能	24

サラウンドを楽しむ

接続したスピーカーの設定をする	26
いろいろな音声効果を楽しむ	30

いろいろな操作

録音する	35
RI EX (RI) 機能に対応したテレビとの連動について	36

その他

故障? と思ったら	37
主な仕様	38
修理について	39
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内	裏表紙

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。



警告

■ 故障したままの使用はしない



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない



- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があげてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない



水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない



- 本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

オーディオ機器の正しい使いかた

警告

■ 中に物を入れない



- 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない



- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない



接触禁止

- 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない



- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意



- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない



- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意



- 電源を入れたときは、音量に注意してください。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 電池について



- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス+とマイナス-の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてしないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて



- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について



電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

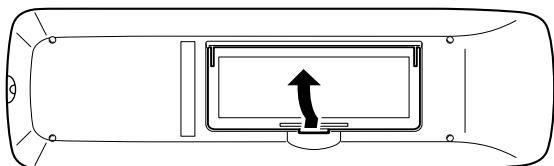


- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

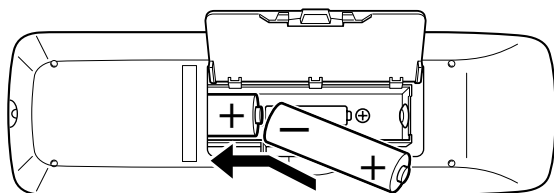
リモコンを準備する

乾電池を入れる

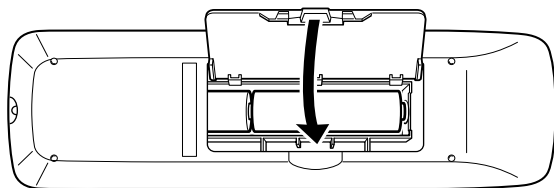
- ① カバーを矢印の方向に押し上げてはずす。



- ② 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を+（プラス）と-（マイナス）を間違えないように入れる。

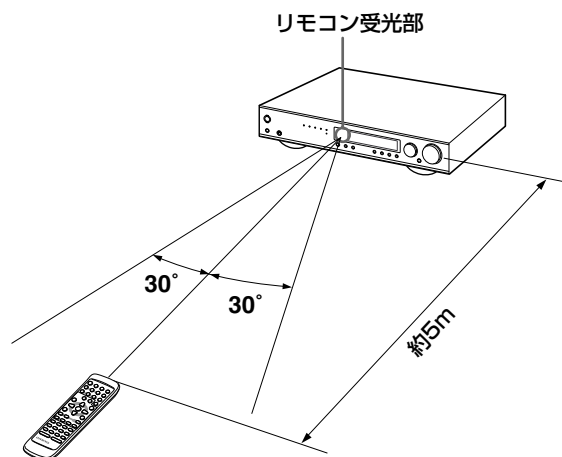


- ③ カバーを戻す。



リモコンを使う

リモコンを本機の受光部に向けて使用してください。



ご注意

- ・ リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- ・ 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- ・ リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- ・ オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- ・ リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

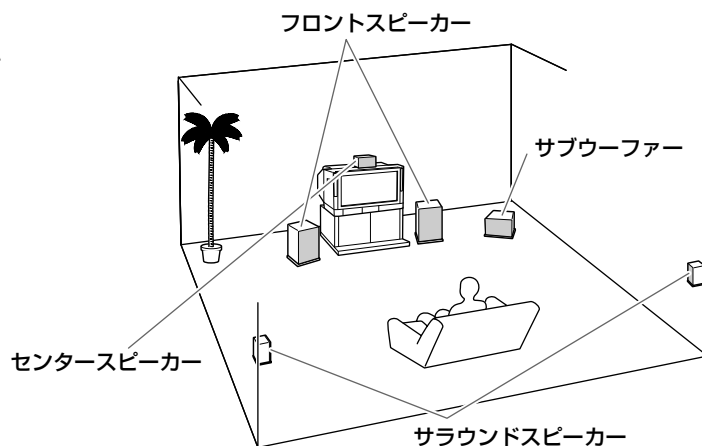
ご注意

- ・ 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- ・ 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- ・ 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- ・ 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池は、単3形をご使用ください。

DVD ホームシアター 早わかりガイド

お手持ちのDVDプレーヤー、テレビ、スピーカーを使ってホームシアターを簡単にお楽しみいただくための早わかりガイドです。

他の機器を接続する場合や操作、設定について詳しくは、12ページ以降をご覧ください。



接続および操作のしかた

■ 接続する前に

- 接続コード類は、各機器に付属または市販のものをご使用ください。また、各機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 電源コードは、すべての接続が終わるまでコンセントに差し込まないでください。
- 入力端子は、赤いコネクタ(Rの表示)を右チャンネル、白いコネクタ(Lの表示)を左チャンネルに接続してください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。

11ページ「接続について」のイラストを参考に下記の手順で進めてください。

1. 各スピーカーの位置を決め、本機とスピーカーを接続する

各スピーカーの役割や配置についての詳細は、18ページをご覧ください。

2. 本機とテレビを接続する

3. 本機とDVDプレーヤーを接続する

4. テレビとDVDプレーヤーを接続する

5. DVDプレーヤーがオンキヨー製品の場合は、R1端子をR1ケーブルで接続する

■ 操作する前に

- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、他の機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューター等の機器とは別系統のコンセントにつないでください。
- 本機は主電源スイッチ(POWER)を入(ON)の状態では工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとSTANDBYインジケータが点灯し、下記の手順2と同じ状態になります。
- 9ページをご覧ください、リモコンの準備をしてください。

11ページ「操作ボタンについて」のイラストを参考に、下記の手順で進めてください。

1. 電源コードを壁のコンセントに接続する [21ページ参照]

2. POWERスイッチを押して主電源を入れる

3. 本体のSTANDBY/ONボタンまたはリモコンのONボタンを押して、電源を入れる

4. 本体のINPUTつまみまたはリモコンのINPUT SELECTORボタンでDVD/CDを選ぶ

5. DVDプレーヤーの再生を始める

6. 本体のVOLUMEつまみまたはリモコンのVOLUME ▲/▼ボタンで音量を調節する

7. サブウーファーモードを選ぶ [28ページ参照]

初期設定ではOFFになっていますので、サブウーファーから音が出ません。Mode1、2、3の中から選んでください。

お知らせ

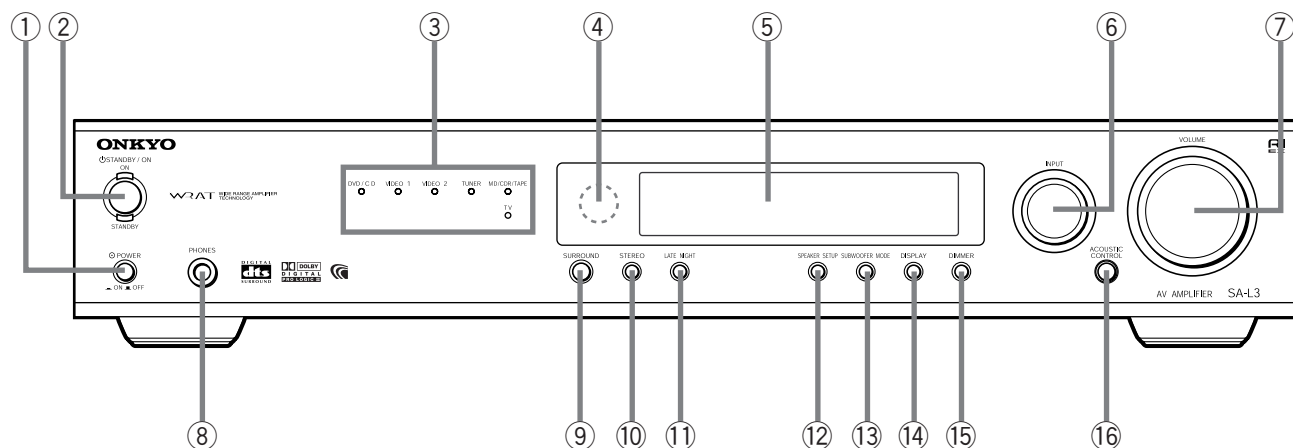
より効果的にサラウンド音声をお楽しみいただくには、スピーカー設定をする必要があります。理想的な配置でスピーカーを設置できない場合や、スピーカーの性能にばらつきがある場合は、スピーカーの設定が重要になります。

29ページをご覧ください、各スピーカーの音量バランスを調整してください。

各部の名称とはたらき

[] 内のページは、参照ページを示しています。

■ 本体前面

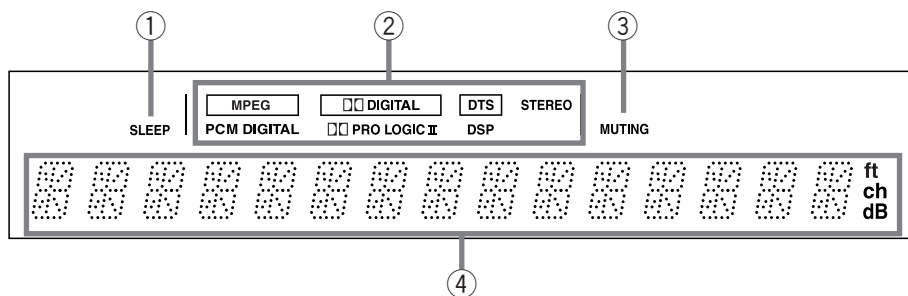


- ① POWERスイッチ (主電源) [21]**
本機の電源を入れます。主電源が入ると、STANDBYインジケータが点灯します。もう一度このスイッチを押して切 (■ OFF) の状態にすると主電源が切れます。
- 主電源を入れる前に、すべてのコードが正しく接続されていることを確認してください。
 - 主電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れ、他の機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続してください。
- ② STANDBY/ONボタン、ONインジケータ、STANDBYインジケータ [21]**
主電源が入っているときに押すと、STANDBYインジケータは消灯し、ONインジケータと表示部が点灯し、約5秒間音量が表示されたあと、入力ソースとリスニングモードが表示されます。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、ONインジケータと表示部が消灯し、操作はできません。
- ③ 入力インジケータ [22]**
選択されている入力ソースに応じてインジケータが点灯します。
- ④ リモコン受光部 [9]**
リモコンからの操作信号を受けます。
- ⑤ 表示部 [13]**
- ⑥ INPUT (入力切り換え) つまみ [22]**
入力ソースを選びます。

- ⑦ VOLUME (音量調整) つまみ [22]**
音量を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、逆方向に回すと音量が小さくなります。
- ⑧ PHONES (ヘッドホン) 端子 [25]**
ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。左右フロントスピーカーの音声がヘッドホンに出力されます。ヘッドホンプラグを挿入するとスピーカーからの音は出なくなり、リスニングモードは自動的に「STEREO」に切り換わります。
- ⑨ SURROUNDボタン [32]**
サラウンドモードを選びます。
- ⑩ STEREOボタン [32]**
リスニングモードを通常のステレオ音声にします。
- ⑪ LATE NIGHTボタン [33]**
LATE NIGHT機能を有効にします。
- ⑫ SPEAKER SETUPボタン [26]**
各スピーカーを設定するときに使います。
- ⑬ SUBWOOFER MODEボタン [28]**
各スピーカーを設定するときに使います。
- ⑭ DISPLAYボタン [24]**
表示部の表示を切り換えます。
- ⑮ DIMMERボタン [24]**
表示部の明るさを調整します。
- ⑯ ACOUSTIC CONTROLボタン/インジケータ [33]**
アコースティックコントロールを切り換え、重低音/高音を強調した迫力のあるサウンドを楽しむことができます。

[] 内のページは、参照ページを示しています。

■ 表示部



- ① ^{スリープ} SLEEP表示 [25]
スリープ機能使用時に点灯します。

- ② 入力音声方式／リスニングモード表示 [32]
入力するソースに応じて「MPEG」、
「PCM DIGITAL」、「DIGITAL」、「DTS」の
いずれかのソース表示が点灯します。また、リスニン
グモードに応じて「PRO LOGIC II」、
「DSP」、「STEREO」のいずれかのリスニング
モードが点灯します。

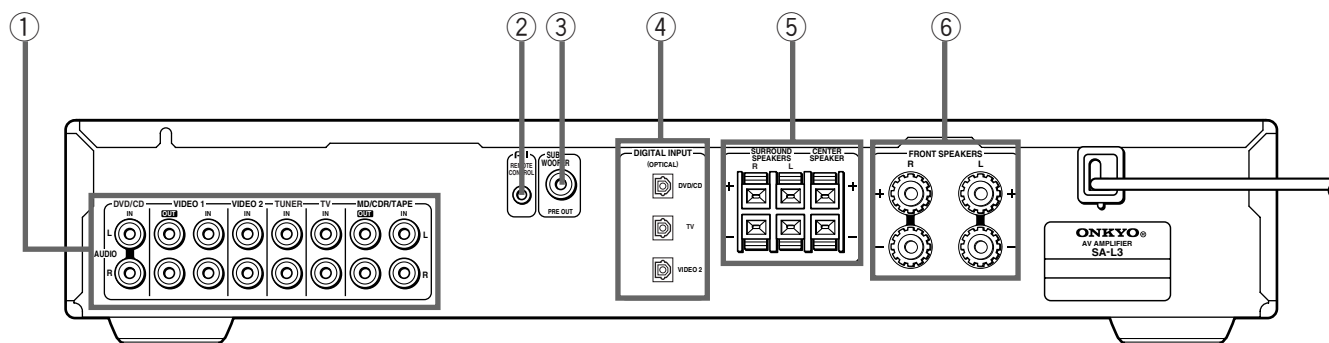
- ③ ^{ミュート} MUTING表示 [25]
ミュート機能使用時に点灯します。

- ④ 多目的表示部 [24]
通常は入力ソースと音量が表示されます。
DISPLAYボタンを押すとリスニングモードや入力
ソースのプログラムフォーマットが表示されます。
入力ソースがアナログの場合はプログラムフォー
マットは表示されません。

各部の名称とはたらき

[] 内のページは、参照ページを示しています。

■ 本体背面



- オーディオ
- ① **AUDIO L/R端子 (DVD/CD IN、VIDEO 1 OUT /IN、VIDEO 2 IN、TUNER IN、TV IN、MD/CDR/TAPE OUT/IN) [16、17]**
アナログ音声の入出力端子です。音声入力は6系統あり、音声出力は2系統あります。音声入出力端子の接続には、RCAタイプのオーディオ用ピンコードが必要です。

- ② **RI端子 [20]**
RI端子付きのオンキヨー製DVDプレーヤーやMDレコーダーなどを、各機器に付属のRIケーブルで接続してください。本機に付属のリモコンでこれらの機器を操作することができます。

また、RI EX対応のオーディオコントロール端子を持つ他社製品を接続することもできます。詳しくは36ページをご覧ください。

RI端子を接続したあとは、他機操作用のリモコンボタンを確認してください。(P.23ページ)

- ・必ずRIマークの付いた端子に接続してください。
- ・RIケーブルで接続した場合も、オーディオ用ピンコードは必ず接続してください。
- ・本機のRI端子は、オンキヨー製品もしくは、RI EX (RI) 対応のオーディオコントロール端子を持つ他社製品と組み合わせた場合のみに使用できます。それ以外の機器とは接続しないでください。故障の原因となります。
- ・機器による接続順序は特にありません。

- サブ ウーファー プリ アウト
- ③ **SUB WOOFER PRE OUT端子 [19]**
アクティブサブウーファー（アンプ内蔵のサブウーファー）を接続します。

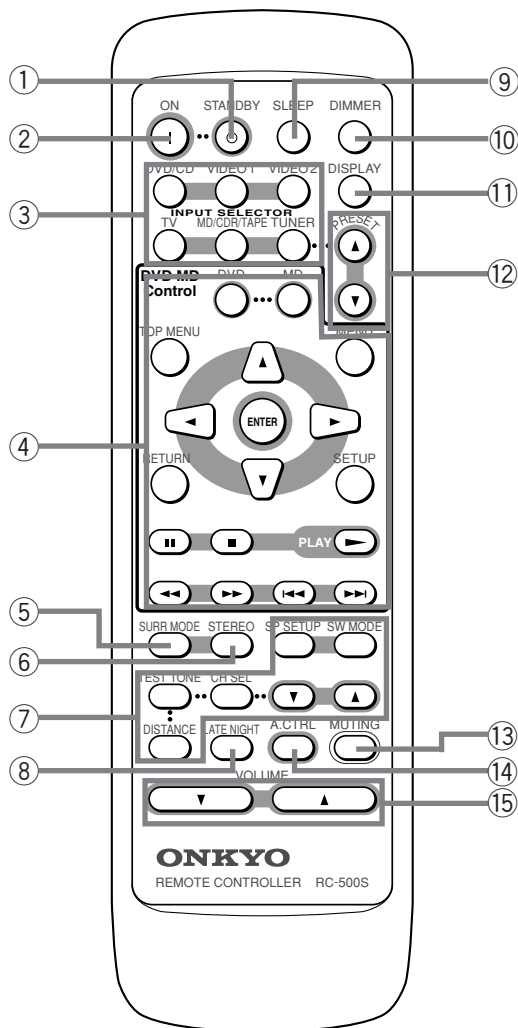
- デジタル インพุット オプティカル
- ④ **DIGITAL INPUT (OPTICAL) 端子 (DVD/CD、TV、VIDEO 2) [16、17]**
デジタル入力端子として、光端子 (OPTICAL) が3つあります。これらの入力端子にDVDプレーヤー、デジタルテレビ、CDプレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。

- サラウンド スピーカー エルアール センター
- ⑤ **SURROUND SPEAKERS L/R端子、CENTER SPEAKER端子 [19]**
センター、左右サラウンドの各スピーカーを接続します。

- フロント スピーカー エルアール
- ⑥ **FRONT SPEAKERS L/R端子 [19]**
左右フロントスピーカーを接続します。

[] 内のページは、参照ページを示しています。

■ リモコン



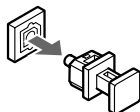
各機能の詳細説明は、12ページの「本体前面」を参照してください。

- ① ^{スタンバイ} **STANDBYボタン [21]**
本機をスタンバイ状態にします。
- ② ^{オン} **ONボタン [21]**
本機の電源を入れます。
- ③ ^{インプット セレクター} **INPUT SELECTORボタン [22]**
入力ソースを選びます。
- ④ ^{ディーバイディエムディー コントロール} **DVD・MD Controlボタン [23]**
操作する機器 (DVD/CD、MD/CDR/TAPE) を選び、本機に**R1**接続した他のオンキヨー機器を操作します。
- ⑤ ^{サラウンド モード} **SURR MODEボタン [32]**
サラウンドモードを選びます。
- ⑥ ^{ステレオ} **STEREOボタン [32]**
リスニングモードをステレオ音声にします。
- ⑦ ^{スピーカー セットアップ サブウーファー モード テスト トーン チャンネル セレクト ディスタンス} **SP SETUP/SW MODE/TEST TONE/CH SEL/DISTANCE/▲/▼ボタン [26-29]**
各スピーカーを設定するときに使います。
- ⑧ ^{レイト ナイト} **LATE NIGHTボタン [33]**
LATE NIGHT機能を有効にします。
- ⑨ ^{スリープ} **SLEEPボタン [25]**
スリープ時間を設定します。
リモコンのみの機能です。
- ⑩ ^{ディマー} **DIMMERボタン [24]**
表示部の明るさを調整します。
- ⑪ ^{ディスプレイ} **DISPLAYボタン [24]**
表示部の表示を切り換えます。
- ⑫ **PRESET ▲/▼ボタン [23]**
放送局のプリセット番号を選択します。
オンキヨー製のチューナーを**R1**接続しているときに使用することができます。あらかじめチューナー側で放送局をプリセットしておいてください。
- ⑬ ^{ミュートイング} **MUTINGボタン [25]**
ミュート機能を有効にします。
リモコンのみの機能です。
- ⑭ ^{アコースティック コントロール} **A.CTRLボタン [33]**
アコースティックコントロールを切り換え、重低音／高音を強調します。
- ⑮ ^{ボリューム} **VOLUME ▲/▼ボタン [22]**
音量を調整します。

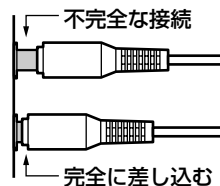
オーディオ機器を接続する

接続する前に

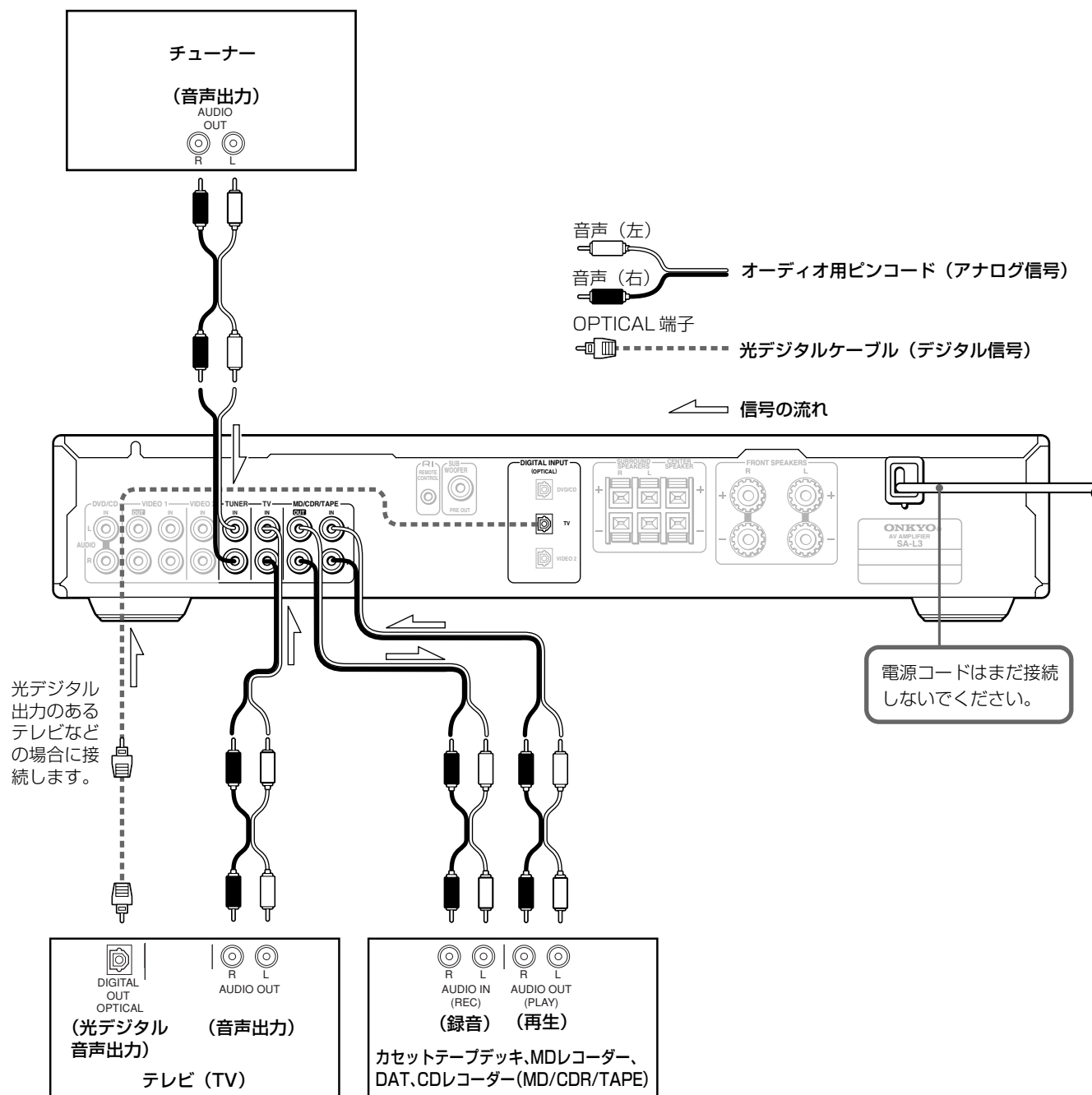
- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、接続するすべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- デジタル端子に接続するときは、保護キャップをはずしてください。デジタル端子を使用しないときは、必ずキャップを元どおりに取り付けてください。



- プラグは奥までしっかり接続してください。



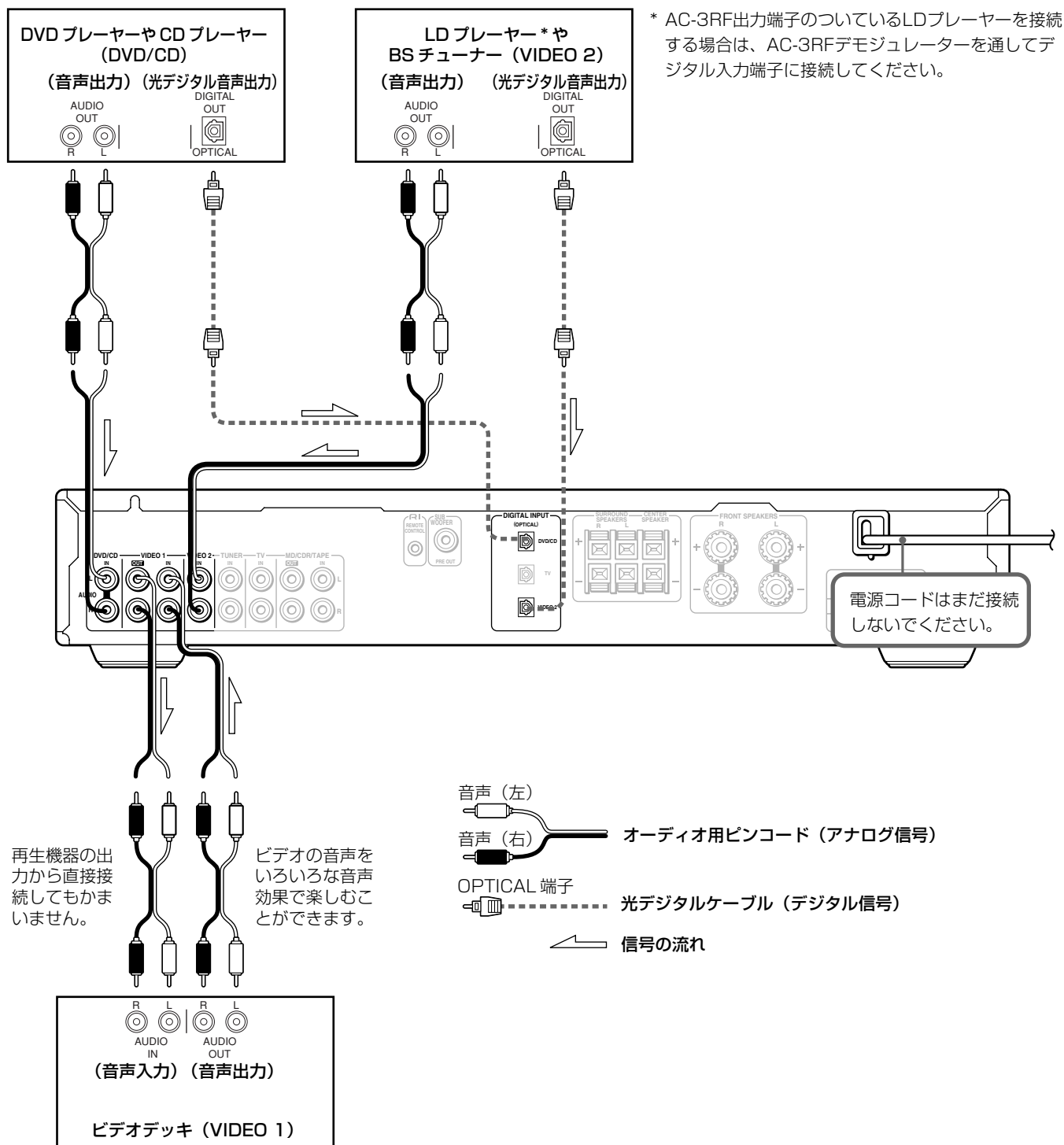
モニター、オーディオ機器の接続例



お知らせ

本機とビデオ機器を接続する場合、本機へ音声入出力を接続し、映像出力はテレビやモニターへ直接接続してください。

ビデオ機器の接続例



スピーカーを配置する

フロントの左、センター、右スピーカー、サラウンドの左右スピーカー、サブウーファーが接続でき、マルチチャンネル再生ができます。

また、スピーカーを2本お持ちの場合は、フロント左右スピーカーが接続でき、ステレオでの再生ができます。

■ 標準的なスピーカー配置

サラウンド音声を再生するには、スピーカーを正しく配置する必要があります。

スピーカーの配置は、部屋の大きさや壁の材質などによっても変わってきますが、ここでは標準的なスピーカー配置を紹介します。以下を参考にしてサラウンド音声を最大限に生かしてください。

右の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。

しかし、センタースピーカーやサブウーファーがないときは、センタースピーカーやサブウーファーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大限に引き出します。

フロントスピーカーについて

フロントスピーカーのうち、センタースピーカーは音源効果や、音の動きを高め、より豊かなサウンドイメージを再現します。

- 左右スピーカーとセンターの3つのスピーカーを音楽や映画を鑑賞する人（リスナー）に向けて配置します。
- 高さはリスナーの耳の位置に調節します。

サラウンドスピーカーについて

サラウンドスピーカーは音の立体的な動きを表現し、あたかもその場にいるかのような臨場感を高めます。

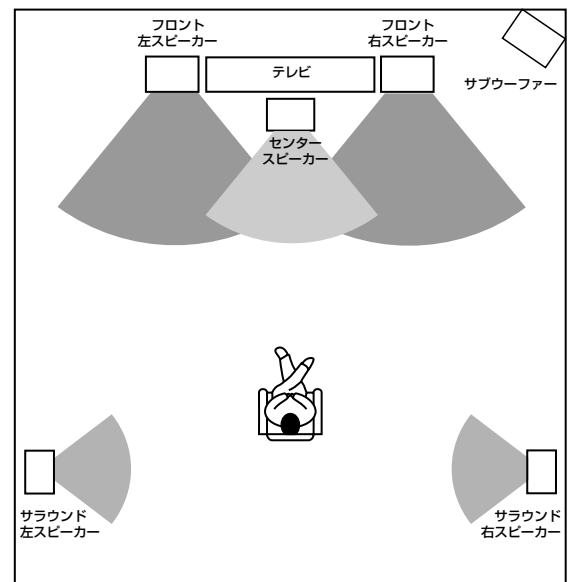
- 左右のサラウンドスピーカーが左右から向き合うようにし、リスナーがサラウンドスピーカーからの音の広がり範囲内に入るように設置します。
- 高さは、リスナーの耳の位置より1メートル高くなるように調節します。

サブウーファーについて

アンプ内蔵のサブウーファーを使用してください。力強い重低音を再現します。

部屋の隅などに配置してください。

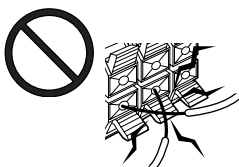
スピーカーの取扱説明書も同時に参照し、最も効果のあるサラウンド音声をお楽しみください。



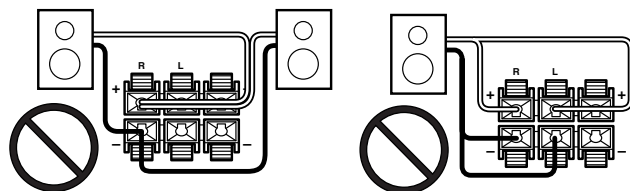
スピーカーを接続する

接続する前に

- 接続するスピーカーの取扱説明書も参照してください。
- プラス(+)とマイナス(-)を間違えて接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声那不自然になります。
- スピーカーはインピーダンスが $6\Omega \sim 16\Omega$ のものを接続してください。
6 Ω 未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。
- 回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線を絶対にショートさせないでください。

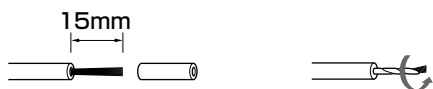


- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

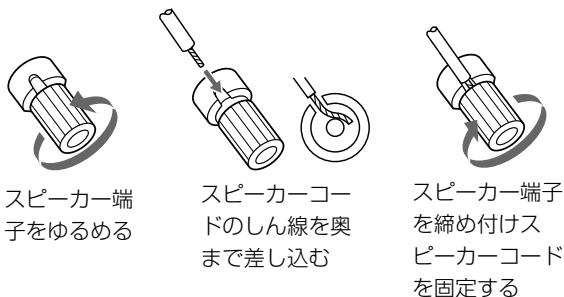


スピーカーの接続

FRONT SPEAKERS端子への接続のしかた



スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して15mmはがし、露出した芯線をよじる。

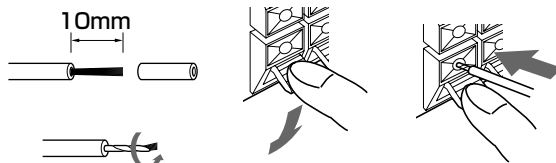


スピーカー端子をゆるめる

スピーカーコードのしん線を奥まで差し込む

スピーカー端子を締め付けスピーカーコードを固定する

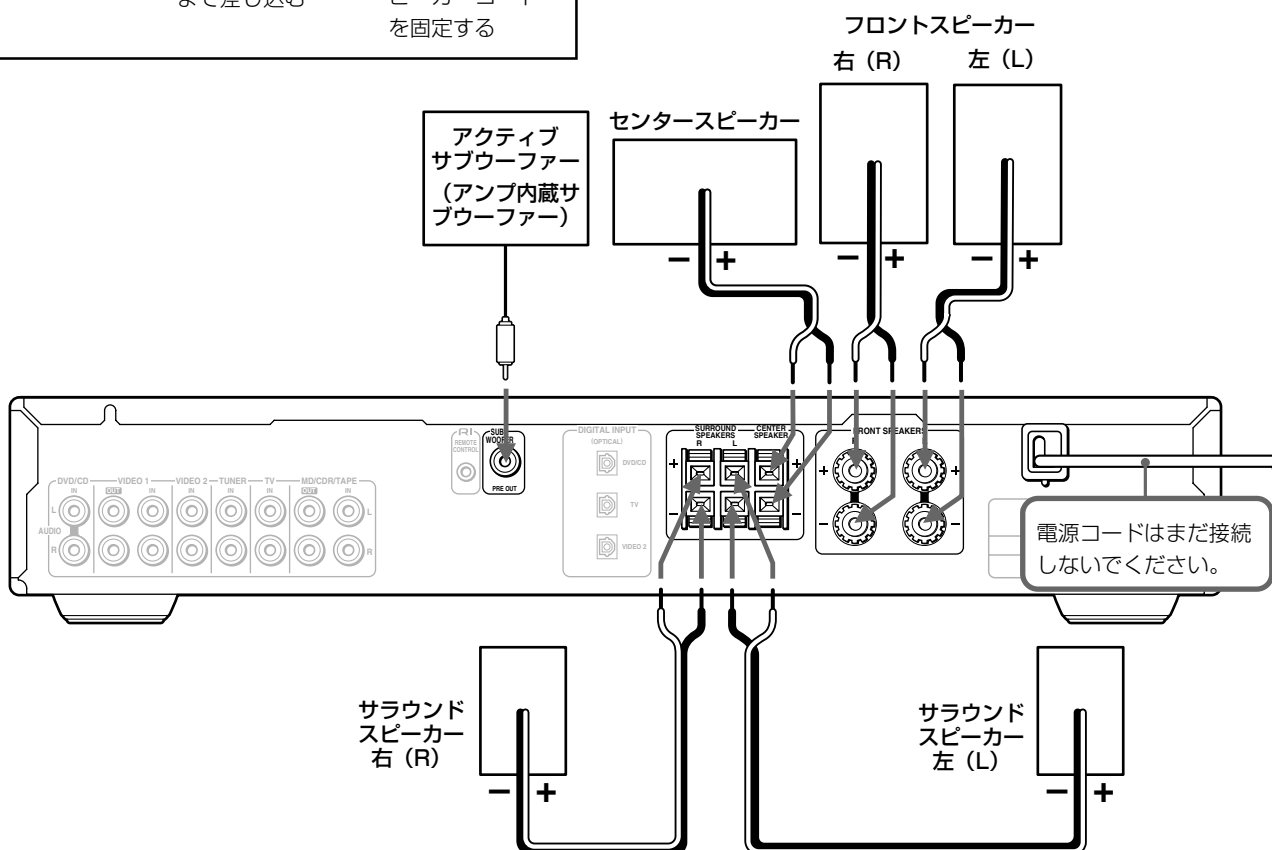
SURROUND SPEAKERS、CENTER SPEAKER端子への接続のしかた



スピーカーコードの先のビニール（絶縁体）部分を、芯線を残して10mmはがし、露出した芯線をよじる。

つまみを押しします。

スピーカーコードの先を差し込む。指を離すとつまみが元の位置に戻ります。



RI 端子付きオンキヨー製品を接続する

本機のRI端子は、同じRI端子を持つオンキヨー製品と接続するためのものです。RI接続した機器は、本機のリモコンで操作することができます。

さらに、次のようなシステム操作ができます。

電源オン/レディ機能

本機がスタンバイ状態のとき、RI接続した機器の電源を入れると、本機の電源が自動的に入り、入力ソースも接続機器に切り換わります。

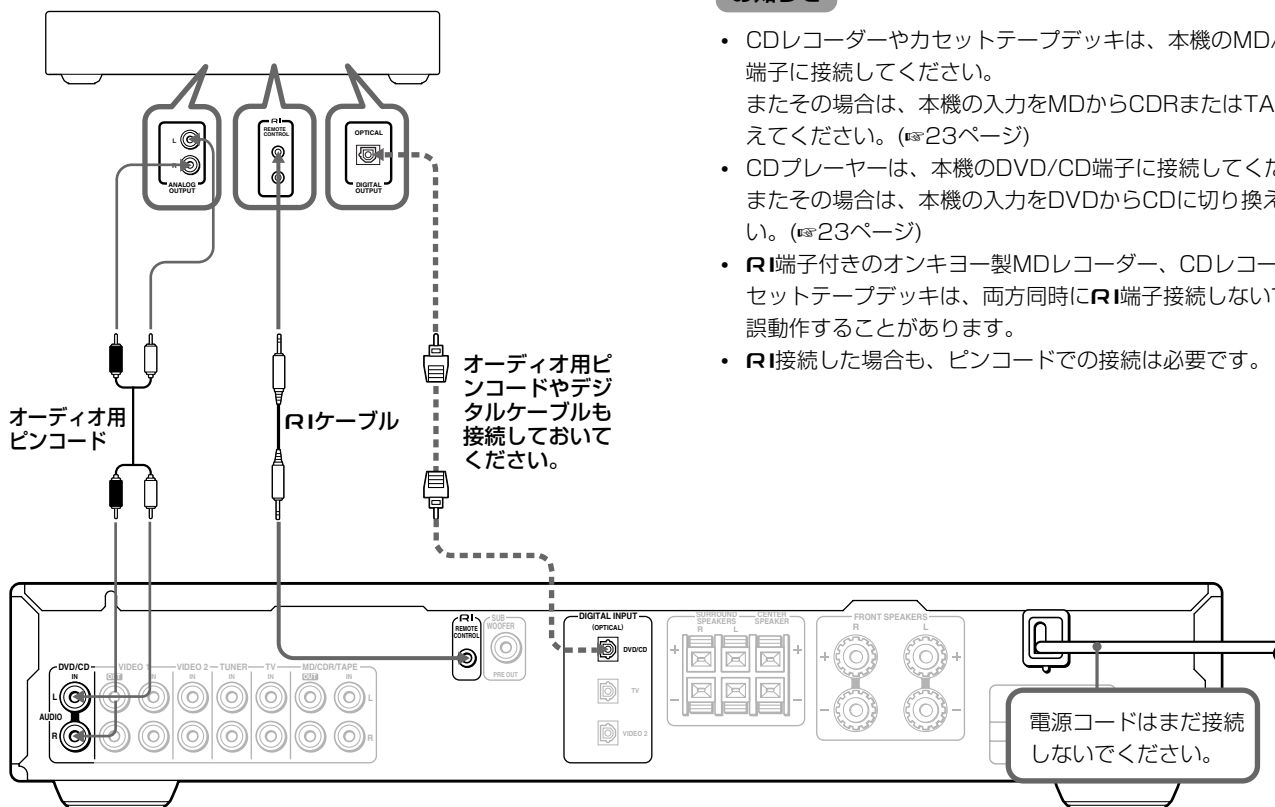
ダイレクトチェンジ機能

RI接続した機器を再生すると、本機の入力ソースが自動的に再生中の機器に切り換わります。

電源オフ機能

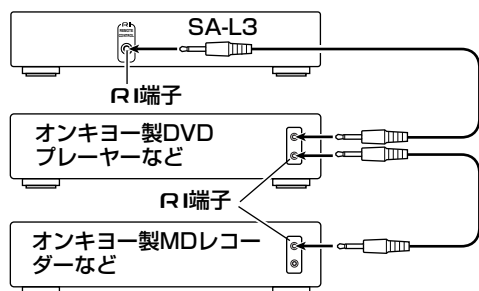
本機をスタンバイ状態にすると、RI接続した機器すべてがスタンバイ状態になります。

RI端子付きオンキヨー製品（例：DVDプレーヤー）



お知らせ

- CDレコーダーやカセットテープデッキは、本機のMD/CDR/TAPE端子に接続してください。またその場合は、本機の入力をMDからCDRまたはTAPEに切り換えてください。(P.23ページ)
- CDプレーヤーは、本機のDVD/CD端子に接続してください。またその場合は、本機の入力をDVDからCDに切り換えてください。(P.23ページ)
- RI端子付きのオンキヨー製MDレコーダー、CDレコーダーおよびカセットテープデッキは、両方同時にRI端子接続しないでください。誤動作することがあります。
- RI接続した場合も、ピンコードでの接続は必要です。



RI端子付きオンキヨー製品が2台以上ある場合の接続例

- 本機にRI接続した機器が2つのRI端子を持っている場合は、もう一方のRI端子にさらにRI端子付きの機器を接続することができます。機器による接続順序は特にありません。
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 必ずRIマークの付いた端子に接続してください。
- 本機のRI端子は、オンキヨー製品もしくは、RI EX (RI) 対応のオーディオコントロール端子を持つ他社製品以外の機器とは接続しないでください。故障の原因になります。

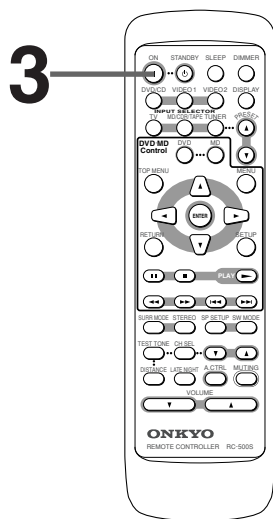
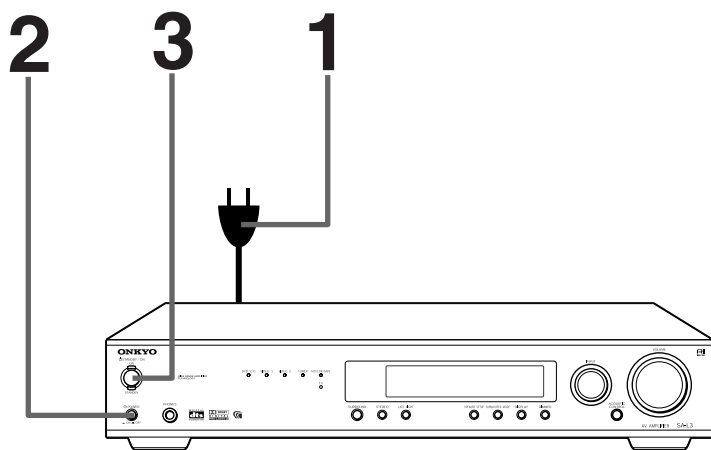
ご注意

一部の機器ではシステム動作しないことがあります。

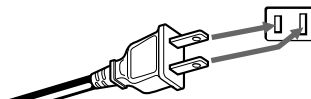
本機の電源をつなぎ、電源を入れる

接続する前に

- 16～20ページの接続がすべて終了しているか確認してください。
- 本機の電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントにつなぐようにしてください。



1 電源コードを壁のコンセントにつなぐ



2 ㊦ POWERスイッチを押して主電源を入れる

本機がスタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが赤く点灯します。

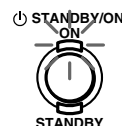


お知らせ

- 工場出荷時は、主電源はオン（ON）になっています。
- 主電源をオフ（OFF）にするには、POWERスイッチをもう一度押します。
- 主電源がオフになっていると、リモコンボタンは働きません。

3 本体の ㊦ STANDBY/ON か、リモコンのONを押して、電源を入れる

電源が入り、ONインジケーターがオレンジ色に点灯します。スタンバイインジケーターは消灯します。



お知らせ

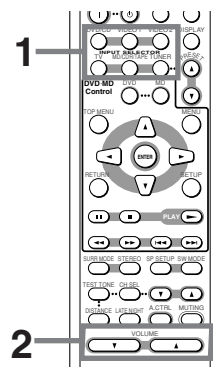
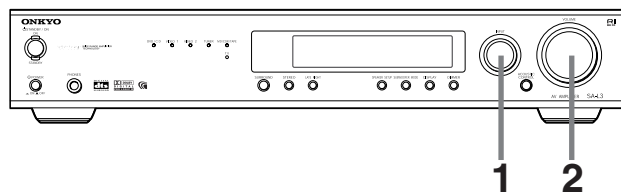
- オンキヨー製のDVDプレーヤーやCDプレーヤー、MDレコーダー、カセットテープデッキをR端子接続（前ページ参照）しているときは、本機がオンのときにリモコンのONボタンを押すとそれらの機器の電源をオンにすることができます。
- 本機の電源を切り、スタンバイ状態にするには、本体のSTANDBY/ONまたは、リモコンのSTANDBYを押します。
次回使用時のために、音量を最小にしてから、電源を切ってください。

より良い音で聞いていただくために

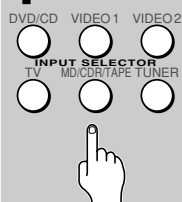
本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの白線マークの方を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

接続した外部機器を再生する

必要に応じて「オーディオ／ビデオ機器を接続する」（P16ページ）も参照してください。



1 リモコン



本体

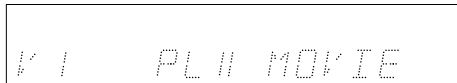
INPUT



リモコンのINPUT SELECTORの各ボタンを押すか、本体のINPUTつまみを回して、以下の入力を選ぶ

- DVD/CD
- VIDEO 1
- VIDEO 2
- TUNER
- TV
- MD/CDR/TAPE

例：VIDEO 1を選んだときの表示部



例：VIDEO 1を選んだときの入力インジケータ

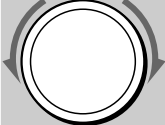


2 リモコン



本体

VOLUME



リモコンのVOLUME ▲/▼を押すか、本体のVOLUMEつまみを回して、音量を調節する

3

選んだ入力に接続している外部機器の再生を始める

以下の機能が使えます。

- 表示部の表示内容を変える（P24ページ）
- 表示部の明るさを暗くする（P24ページ）
- 音声を一時的に小さくする〈ミュート機能〉（P25ページ）
- ヘッドホンで聞く（P25ページ）
- スリープタイマーを使う（P25ページ）

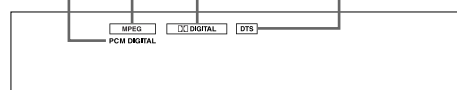
■ デジタル音声について

デジタル端子に接続している機器からのデジタル音声は、自動的にアナログ音声から切り換わって処理されます。

- 入力をDVD/CDにすると、DIGITAL INPUT (OPTICAL) DVD/CD端子からのデジタル音声再生されます。
- 入力をVIDEO 2にすると、DIGITAL INPUT (OPTICAL) VIDEO 2端子からのデジタル音声再生されます。
- 入力をTVにすると、DIGITAL INPUT (OPTICAL) TV端子からのデジタル音声再生されます。

デジタル音声を認識すると、その音声方式によって、PCM DIGITAL、MPEG、DIGITAL、DTSのいずれかのインジケータが表示部に点灯します。

PCM DIGITAL MPEG DIGITAL DTS



お知らせ

外部機器からのデジタル信号は、PCM、DOLBY DIGITAL（ドルビーデジタル）、DTS（ディーティーエス）、MPEG2 AACのみ再生できます。

サラウンドを楽しむ

サラウンドを楽しむには、スピーカーを配置したあとにスピーカーの設定をきちんと行うことが重要なポイントとなります。

30ページを参照し、マルチチャンネル音声をお楽しみください。

オンキヨー製のオーディオ機器を付属のリモコンで操作する

■ オンキヨー製チューナーを操作する

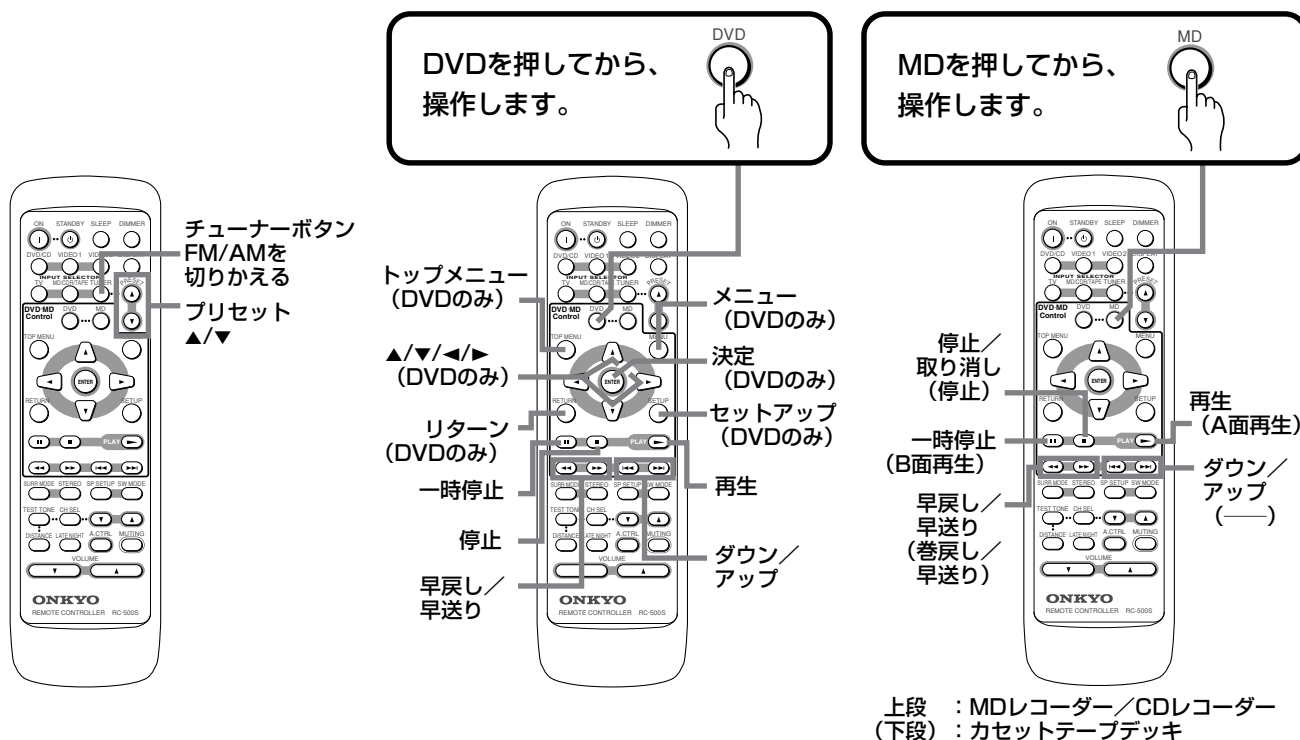
RI接続が必要です(※20ページ)。
事前に放送局をプリセットしておく必要があります。
操作するときは、リモコンを本機に向け
ます。

■ オンキヨー製DVDプレーヤーもしくはオンキヨー製CDプレーヤーを操作する

RI接続が必要です(※20ページ)。
DVD/CD端子にCDプレーヤーを接続している場合は、先に下記の項の手順にしたがって表示部の入力表示を切り換えてください。
操作するときは、リモコンを本機に向け
ます。

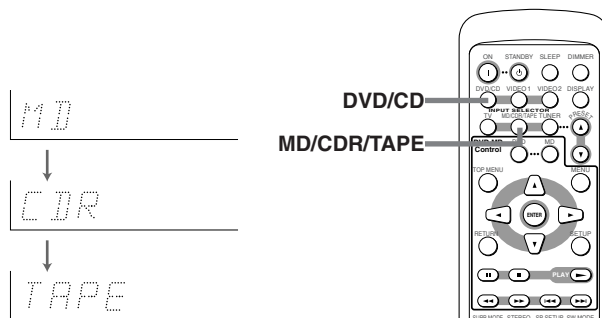
■ オンキヨー製MDレコーダー／CDレコーダーもしくはオンキヨー製カセットテープデッキを操作する

RI端子接続が必要です(※20ページ)。
MD/CDR/TAPE端子にCDレコーダーまたはカセットテープデッキを接続している場合は、先に下記の項の手順にしたがって表示部の入力表示を切り換えてください。
操作するときは、リモコンを本機に向け
ます。



■ 表示部の入力表示をMDからCDR、TAPEに切り換える／DVDからCDに切り換える

本機のMD/CDR/TAPE端子にCDレコーダーまたはカセットテープデッキが接続されている場合、リモコンのINPUT SELECTORまたは本機のINPUTつまみでMD/CDR/TAPEを選んだときに、CDRまたはTAPEと表示させることができます。同様に、本機のDVD/CD端子にCDプレーヤーが接続されている場合も、DVD/CDを選んだときにCDと表示させることができます。表示を変えることによって、オンキヨー製のカセットテープデッキやCDプレーヤーをRI接続している場合は、RIシステム操作が可能になります。



表示を変えるには (MDからCDRまたはTAPEに変える場合)

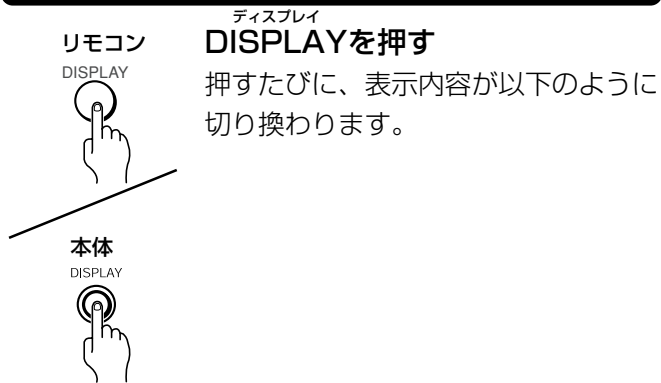
- 1 リモコンのINPUT SELECTORのMD/CDR/TAPEボタンを押して、入力を切り換えます。
- 2 MD/CDR/TAPEボタンを、MD表示がCDRまたはTAPEに切り換わるまで(約2秒間)押し続けます。

表示を元に戻すには、同じ操作をします。

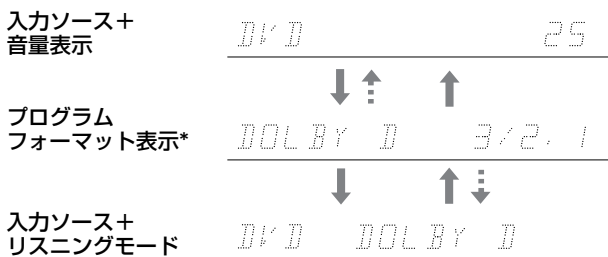
この設定は、接続したオンキヨー製のカセットテープデッキ、CDレコーダーやMDレコーダー、DVDプレーヤーやCDプレーヤーのRIシステム機能を有効にするために必要です。

すべての入力に共通したいろいろな機能

表示部の表示内容を変える

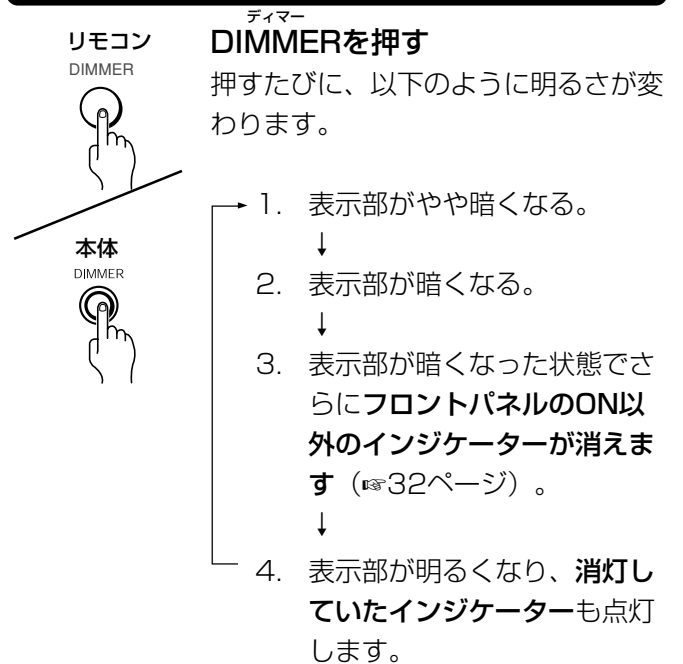


DISPLAY ボタンを 1 回押すとフォーマット表示になります。
この状態からもう 1 度押すと他方の表示になります。



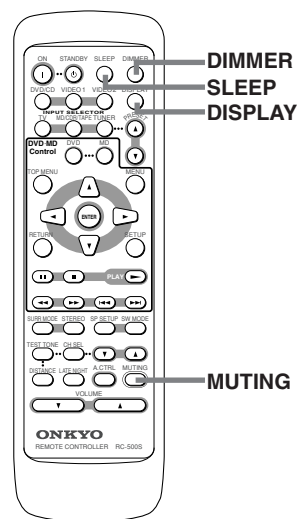
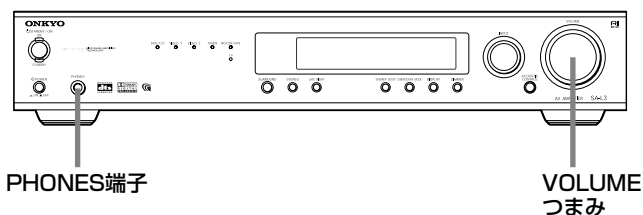
* 入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。フォーマット表示状態で約 5 秒経過すると、もとの表示に戻ります (....➡)。

表示部の明るさを暗くする



お知らせ

当社のDV-L5X、MD-2000などをRi接続している場合、これらの機器の表示部も連動して明るさが変わります。



音を一時的に小さくする 〈ミュート機能〉

リモコンのみ



ミュートイング

MUTINGを押す

ミュート機能が働いている間は、MUTINGインジケータが表示部に点滅します。



MUTINGをもう一度押すと、元の音量に戻ります。

お知らせ

本機をスタンバイ状態にするとミュート機能は解除されます。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続する



お知らせ

- ヘッドホンを接続すると、スピーカーからは音声は出力されません。
- 音声は自動的にステレオ音声になります。（リスニングモードが『STEREO』になります。P.32ページ）
- ヘッドホンを抜くと、接続前のリスニングモードに戻ります。

スリープタイマーを使う

リモコンのみ



スリープ

SLEEPを押す

『SLEEP 90MIN』が多目的表示部に約5秒間あらわれ、SLEEPインジケータが表示部に点灯します。
90分後に電源が切れてスタンバイになります。

SLEEPインジケータ



SLEEPを押すごとに、電源の切れる残り時間が10分ずつ少なくなります。

■ スリープタイマーの残り時間を確認する

スリープタイマーをセットした後で、SLEEPを押す残り時間が表示されます。

残り時間表示中にSLEEPを押すと、押す度に、電源の切れる残り時間が10分ずつ少なくなります。

■ スリープタイマーをキャンセルする

SLEEPインジケータが消えるまで、SLEEPを繰り返し押す

接続したスピーカーの設定をする

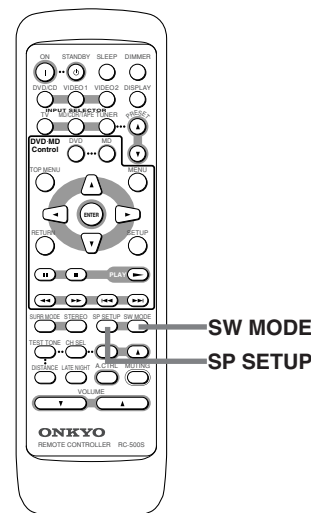
マルチチャンネル再生を楽しむには、スピーカーの構成や、視聴位置までの距離、音量バランスの調整をする必要があります。ここでは、19ページで接続したスピーカーの設定をします。

スピーカー構成や配置を変えない限り、通常は設定を繰り返す必要はありません。

お知らせ

ヘッドホンを接続しているとき（25ページ）は設定できません。

前もって視聴位置からスピーカーまでの距離を測っておきます。



■ 設定の手順

スピーカー構成を設定する（25本ページ）



視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（27ページ）



サブウーファーモードを選ぶ（28ページ）



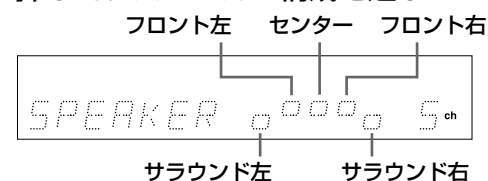
各スピーカーの音量バランスの調整をする
<Test Tone>（29ページ）

■ スピーカー構成を設定する

SP SETUP



SP SETUPを3秒以内に繰り返し押して、スピーカー構成を選ぶ



表示とスピーカー構成の内容

	5ch	スピーカー 5ch
	2ch	スピーカー 2ch
	3ch	スピーカー 3ch
	4ch	スピーカー 4ch

3秒経過すると、通常表示に戻ります。

お知らせ

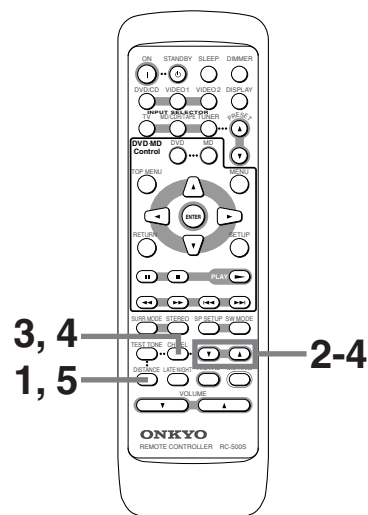
- 現在のリスニングモードが選択できないスピーカー構成を設定した場合、自動的にリスニングモードが変化します。
- 表示部が通常表示のときに、現在設定されているスピーカー構成を確認するときは、SP SETUPを1度だけ押します。現在のスピーカー構成が表示されている間にSP SETUPをさらに押すと、スピーカー構成を変更することができます。

視聴位置から、各スピーカーまでの距離を、あらかじめ測っておきます。

設定するときは、実測値に最も近い値を選んでください。

左右にあるスピーカーは、片方の距離を測ってください。

(左右スピーカーは、視聴位置から等距離とします。)

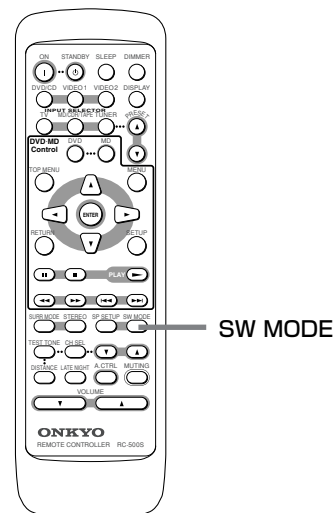
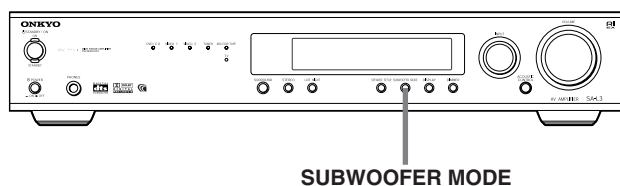


■ 視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定する

1 DISTANCE	ディスタンス DISTANCEを押す 本体の表示部に、左右フロントスピーカーの設定表示があらわれます。
2 ▲/▼を押して、左右フロントスピーカーの距離を選ぶ	▲/▼を押して、左右フロントスピーカーの距離を選ぶ 最短0.3mから最長9mまで設定できます。
3 CH SEL	CH SELを押し、▲/▼を押して、センタースピーカーの距離を選ぶ お知らせ 「スピーカー 2ch」や「スピーカー 4ch」のようにセンタースピーカーを含まないスピーカー構成を設定をしている場合は、この設定はありません。 - センタースピーカーは、左右のフロントスピーカーより1.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。
4 CH SEL	CH SELを押し、▲/▼を押して、サラウンドスピーカーの距離を選ぶ お知らせ 「スピーカー 2ch」や「スピーカー 3ch」のようにサラウンドスピーカーを含まないスピーカー構成を設定をしている場合は、この設定はありません。 - 左右のサラウンドスピーカーは、左右のフロントスピーカーより4.5mまで近くに設定できますが、フロントスピーカーより遠くには設定できません。
5 DISTANCE	DISTANCEを押す 設定が終わり、通常表示に戻ります。

• DISTANCE設定には、サブウーファースの項目はありません。

接続したスピーカーの設定をする



■ サブウーファーモードを選ぶ

サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの設定をします。

本体
SUBWOOFER MODE



リモコン
SW MODE



本体のSUBWOOFER MODE、または、リモコンのSW MODEを（繰り返し）押して、サブウーファーモードを選ぶ

SUBWOOFER MODE 1

SUBWOOFER MODEを1度だけ押すと、現在の設定を確認することができます。さらにSUBWOOFER MODEを押していくと、サブウーファーモードを変更することができます。

- 『SUBWOOFER OFF』
サブウーファーを接続していないとき、また、サブウーファーを接続していても使用しない場合
- 『SUBWOOFER MODE1』
すべてのチャンネルの低音をサブウーファーから出したい場合
- 『SUBWOOFER MODE2』
センター、サラウンドチャンネルからの低音をサブウーファーから出したい場合

- 『SUBWOOFER MODE3』
5.1チャンネルソースのLFEチャンネル*のみをサブウーファーから出したい場合

3秒経過すると、通常表示に戻ります。

ロー フリークエンシー エフェクト
*LFEチャンネル： Low Frequency Effectのことで、低域効果音を記録したチャンネルのこと

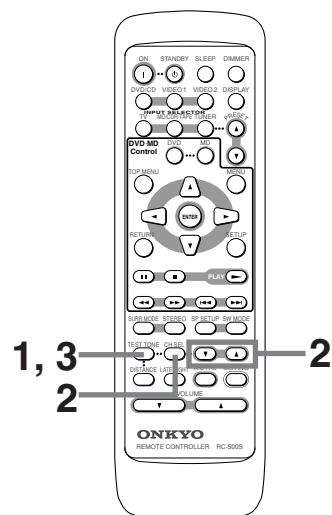
ご注意

サブウーファーモードを「SUBWOOFER MODE2」や「SUBWOOFER MODE3」に設定し、ステレオで再生している場合、ソースによってはサブウーファーから音が出ない場合があります（2チャンネルのドルビーデジタルソースやDTSソースなど）。

すべてのスピーカーの音が、視聴位置から同じ大きさに聞こえるように調整していきます。

お知らせ

MUTING中は調整できません。



テストトーン

■ 各スピーカーの音量バランスの調整をする〈Test Tone〉



テストトーン TEST TONEを押す

左フロントスピーカーからテストトーンが出力されるので、音量をいつも聞いている大きさにします。

次の順序で各スピーカーが表示部に表示され、表示されたスピーカーからテストトーンが出力されます。

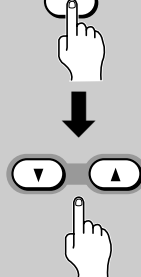
LEFT (左フロント)	→	CENTER (センター)
↑		↓
SUBWOOFER (サブウーファー)		RIGHT (右フロント)
↑		↓
SURR LEFT (左サラウンド)	←	SURR RIGHT (右サラウンド)

LEFT = 0 dB

お知らせ

- 設定したスピーカー構成にないスピーカーからは（実際は接続していても）、テストトーンは出力されません。
- サブウーファーを接続していても、サブウーファーを「SUBWOOFER OFF」にしているとテストトーンは出力されません。

2 CH SEL



チャンネル セレクト

CH SELを（繰り返し）押してスピーカーを選び、▲/▼を押して、音量を調整する

音量レベルは-12dB~+12dBの間で調整できます。

3 TEST TONE



調整が終わったら、TEST TONEを押す

テストトーンが止まり、表示部は通常表示に戻ります。

お知らせ

TEST TONEを押さなくても、2分たつと、テストトーンは解除されます。

いろいろな音声効果を楽しむ

本機のサラウンド音声によってお部屋にしながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気味わっていただけます。サラウンド音声をお楽しみいただくためにはスピーカー構成が重要な役割を果たします。（※18ページ「スピーカーを配置する」）

サラウンドモードについて

■ DOLBY DIGITAL サラウンドとDTS (Digital Theater System) サラウンドと MPEG-2 AAC サラウンド

フルレンジ（20Hz～20kHz）の5チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生する5.1チャンネルのデジタル・サラウンド・フォーマットです。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭でも簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。

DOLBY DIGITALは、マークのついたDVDビデオなどの再生時に楽しむことができます。DTSはマークのついたDVD、レーザーディスク、CDなどの再生時に楽しむことができます。MPEG-2 AACは、BSデジタル放送で採用されている音声フォーマットで、この方式のソースの再生時に楽しむことができます。

■ DOLBY PRO LOGIC II サラウンド

従来の4チャンネル（左右フロント、センター、モノラルのサラウンドチャンネル）のプロロジックサラウンドと5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドの橋渡しをする、次世代の5チャンネルサラウンド方式です。映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで、帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。

マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のTV番組再生時に楽しむことができます。またMusicモードはCDなどのステレオ音楽で楽しむことができます。

■ アナログ/PCM (Pulse Coding Modulation) サラウンド

アナログソースには、レコード、AM/FM放送、カセットテープなどがあります。PCM（パルスコードモジュレーション）は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずにCDやDVDに直接記録されます。アナログまたはPCMソースでは、オンキヨー独自のDSP（デジタルシグナルプロセッサー）モードを楽しむことができます。

ORCHESTRA（オーケストラ）

クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

UNPLUGGED（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージをつくります。

STUDIO-MIX（スタジオミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適した音声効果です。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV LOGIC（ティーヴィーロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適した音声効果で、局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

ALL CH ST（オールチャンネルステレオ）

BGMとして音楽をかける時に便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージをつくり出します。

DTS音声についてのお知らせ

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDを再生すると、本機が最初のDTSエンコード信号を識別してDTSデコーダーを作動するまでの短時間、ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生しているときに、プレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケータが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケータがついたままとなります。これは、プレーヤー側で行う一時停止やスキップなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り換わるソースでは、PCM信号がすぐには再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても、正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータと見なすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズが発生してしまいます。
- 本機のMD/CDR/TAPE OUT、VIDEO 1 OUTの各出力端子は、アナログ音声を出力しています。このため、DTSフォーマットで記録されたCDやLDを録音しようとする場合、DTSエンコード信号をそのままノイズとして録音することとなりますので、DTSフォーマットで記録されたCDやLDは録音しないでください。

入力音源と選択できるリスニングモード

選択できるリスニングモードは、入力音源のタイプによって異なります。以下の表で確認してください。（●のリスニングモードが選択できます。）

お知らせ

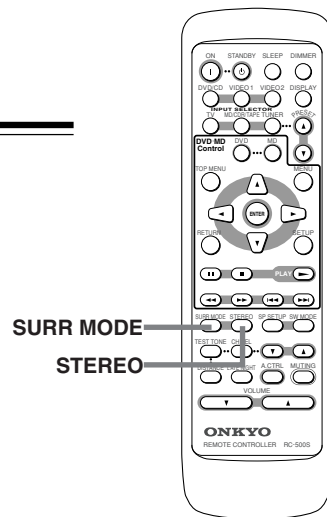
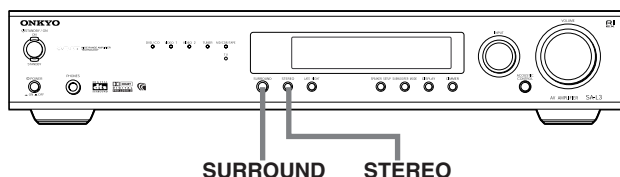
- スピーカー構成を「スピーカー 2ch」に設定したとき、ヘッドホンを使用しているときは、STEREOのみの選択となります。
- ORCHESTRA、UNPLUGGED、STUDIO-MIX、TV LOGIC、ALL CH STEREOは、スピーカー構成を「スピーカー 4ch」または「スピーカー 5ch」に設定しているときのみ選択できません。
- ORCHESTRAを選んだときは、スピーカー構成を「スピーカー 5ch」にしても、センタースピーカーからは音が出ません。

入力ソースの信号	Analog	PCM*1	Dolby Digital		DTS	MPEG-2 AAC		
リスニングモード	ソースとなるソフト カセットテープ、 FM/AM、 ビデオテープなど	音楽用CDビデオ DVDビデオ、 DVDオーディオ	DVDビデオ、LD*2		音楽用CD、 DVDビデオ、LD	デジタル衛星放送		
			マルチチャンネル	ステレオ		マルチチャンネル	ステレオ	音声多重放送
STEREO	●	●	●	●	●	●	●	
PL II MOVIE	●	●		●			●	
PL II MUSIC	●	●		●			●	
DOLBY D			●					
DTS					●			
AAC						●		
AAC MAIN + SUB								●
AAC MAIN								●
AAC SUB								●
ORCHESTRA	●	●						
UNPLUGGED	●	●						
STUDIO-MIX	●	●						
TV LOGIC	●	●						
ALL CH STEREO	●	●						

*1 96kHzのサンプリングレートで記録されたPCMソースはSTEREOのみの再生となります。

*2 AC-3RF出力端子の付いているLDプレーヤーを接続する場合は、AC-3RFデモジュレータを通してデジタル入力端子に接続してください。

いろいろな音声効果を楽しむ



ドルビー プロ ロジック ツー Dolby Pro Logic IIとオンキヨーの オリジナルDSPモードを使う

このリスニングモードに対応する音源については、「入力音源と選択できるリスニングモード」（P31ページ）を参照してください。

リモコン

SURR MODE



本体

SURROUND



リモコンのSURR MODEか、本体のSURROUNDを押して、

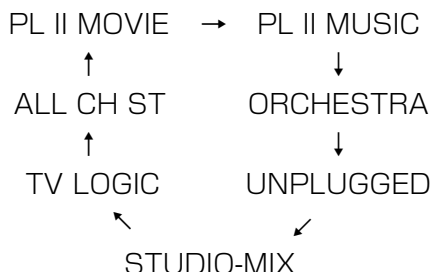
『PL II』か、DSPモードを選ぶボタンを1回押すと、現在の設定が表示されます。

設定表示中に繰り返しボタンを押すと、モードが切り換わります。

DSPインジケータ



各モードは、次の順序で表示部にあられます。



ドルビープロロジック IIについて

- ドルビーサラウンド音声の再生に適しています。
- 表示部に『PL II MOVIE』または『PL II MUSIC』が表示され、PRO LOGIC II インジケータが点灯します。

PRO LOGIC II インジケータ



- スピーカー設定（P26ページ）で『SPEAKER 2ch』を設定した場合は、表示されません。

ステレオ音声にする

リモコン

STEREO



本体

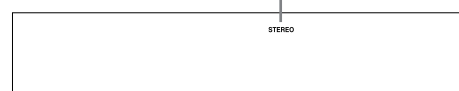
STEREO



STEREOを押す

リスニングモードが『STEREO』になり、表示されます。また、STEREOインジケータが点灯します。

STEREOインジケータ



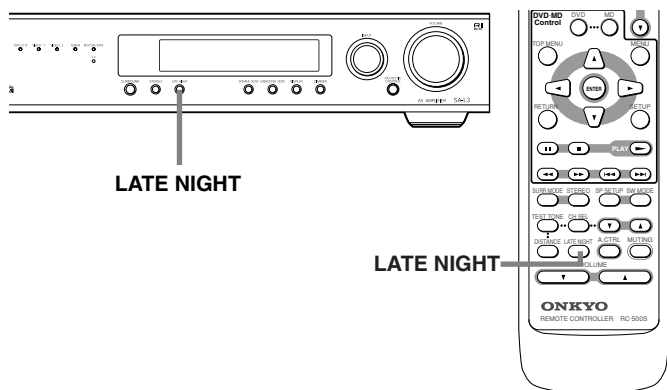
音声多重放送受信中の便利な機能

MPEG-2AACの音声多重放送（プログラムフォーマット 1+1）を受信中はSTEREOボタンを押すたびに「主音声＋副音声」→「主音声のみ」→「副音声のみ」と切り換わります。

レイト ナイト LATE NIGHT機能を使う

LATE NIGHTはドルビーデジタルサラウンド音声に対してはたります。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいので、環境音や人の会話などの小さな音を聞こえようとすると、かなり音量をあげる必要があります。レイトナイト機能は、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに特に役立ちます。



LATE NIGHT

本体

LATE NIGHT

LATE NIGHTを押す

現在の設定が表示されます。表示中にボタンを（繰り返し）押すと、設定が切り換わります。

- DOLBY DIGITALサラウンド音声再生中は、『LATE NIGHT』の『LOW』、『HIGH』、『OFF』から選択できます。

OFF： レイトナイト機能をオフにします

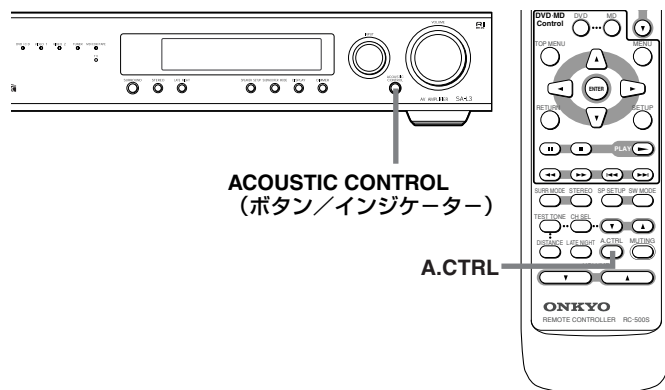
LOW： ダイナミックレンジを小さくします

HIGH： ダイナミックレンジをさらに小さくします

LATE NIGHT=LOW

重低音／高音を強調する アコースティック コントロール 〈Acoustic Control〉

小音量でも、重低音や高音を強調した迫力のあるサウンドを楽しむことができます。音声方式に関係なく設定できます。



リモコン
A.CTRL

本体
ACOUSTIC CONTROL

リモコンのA.CTRL、または、本体のACOUSTIC CONTROLを押す

ボタンを押す度に、以下のようにモードが変わります。

A . CONTROL OFF

↓

『A.CONTROL 1』（アコースティックコントロール1）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケータが点灯します。

フロントスピーカーの重低音が強調されます。

ACOUSTIC CONTROL

↓

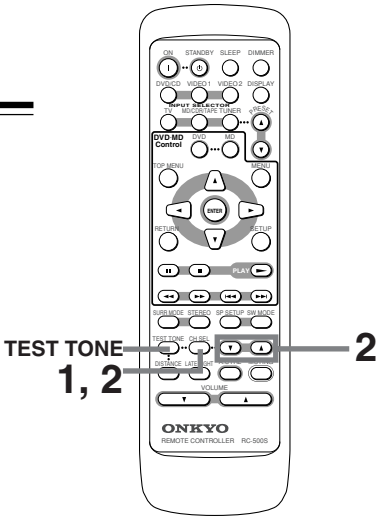
『A.CONTROL 2』（アコースティックコントロール2）が表示され、ACOUSTIC CONTROLインジケータが点灯します。

フロントスピーカーの重低音がさらに強調され、高音も強調されます。

お知らせ

DIMMERボタンで消灯しているときにアコースティックコントロールの状態を確認したいときは、ACOUSTIC CONTROLもしくはリモコンのA.CTRLを押してください。現在の状態を表示します。

いろいろな音声効果を楽しむ



各スピーカーの音量バランスを一時的に調整する

再生している音声を聞きながら、各スピーカーの音量バランスをお好みで調整することができます。
ここで調整した音量バランスは、本機の電源を切るか、主電源をオフにすると、29ページで調整した値に戻ります。
ここで調整した音量バランスを記憶させることもできますが、その場合は、29ページで調整した音量バランスは消えてしまいます。

お知らせ

MUTING中は調整できません。

1

CH SEL

(各スピーカーからの音量を確認する)

音声再生中に、チャンネル セレクトCH SELを繰り返し押す

次の順序でスピーカーが表示され、表示されたスピーカーのみから音声が出力されます。

LEFT (左フロント)
↓
CENTER (センター)
↓
RIGHT (右フロント)
↓
SURR RIGHT (右サラウンド)
↓
SURR LEFT (左サラウンド)
↓
SUBWOOFER (サブウーファー)
↓
音量バランス調整モードがオフになります。



お知らせ

実際に接続していても、設定したスピーカー構成にないスピーカーは、選ばれません。

2

CH SEL

(各スピーカーの音量を調整する)

音声再生中にCH SELを（繰り返し）押してスピーカーを選び、▲/▼を押して、音量を調整する

音量レベルは-12dB～+12dBの間で調整できます。

■ 調整した内容を記憶させるには



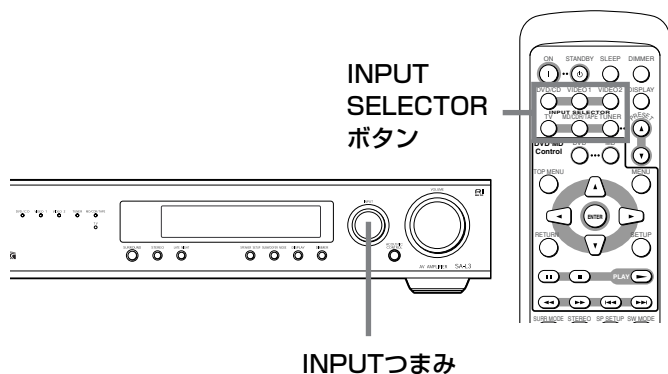
TEST TONEを押す

録音する

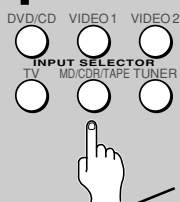
※あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

音楽や映画を再生しながら録音する

VIDEO 1 OUT（録音のみ）、MD/CDR/TAPE OUT（録音のみ）端子に接続した機器で録音します。



1 リモコン



リモコンのINPUT SELECTORを押すか、本体のINPUTつまみを回して、録音したいソースを選ぶ
現在選択中のソースからの信号がVIDEO 1 OUT、MD/CDR/TAPE OUTの各出力端子に出力され、録音可能な状態になります。

本体

INPUT

2

録音機器で、録音を始める

お知らせ

- デジタル入力（DIGITAL INPUT）に接続した機器からの音声は、VIDEO 1やMD/CDR/TAPEのOUTに出力しません。録音できるのはアナログ音声だけです。アナログ接続を確実にしてください。
- 録音中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音されます。
- サラウンド効果は録音されません。
- VIDEO 1のINに接続した機器からの音声は、VIDEO1 OUTからは出ません。同様にMD/CDR/TAPEのINに接続した機器からの音声はMD/CDR/TAPE OUTからは出ません。

RI EX(㊄)機能に対応したテレビとの連動について

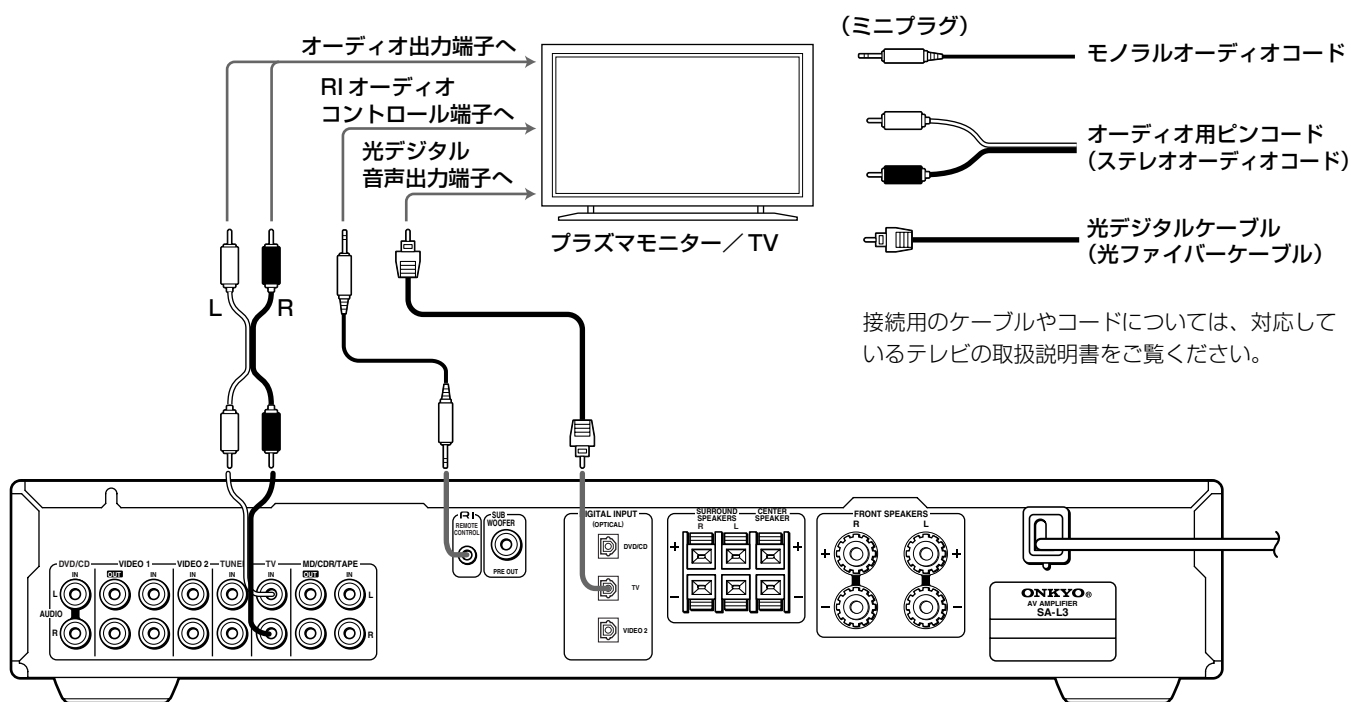
本機は、外部オーディオ機器をコントロールするためのRIオーディオコントロール端子を持つテレビと接続すると、次のような動作が可能になります。

- ・ テレビの電源を入ると本機も自動的に電源が入り、入力がTVに切り換わります。
また、電源を切る（スタンバイにする）と、本機も自動的にスタンバイ状態*になります。
* 本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態にはなりません。
- ・ テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミュート（消音）ができます。
このとき、テレビの音声は消えます。
- ・ 本機のみをスタンバイにすると、テレビはついたままで音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RIオーディオコントロール端子が付いているかどうかをご確認ください。

※2002年5月発売の東芝製プラズマテレビより対応を開始しています。

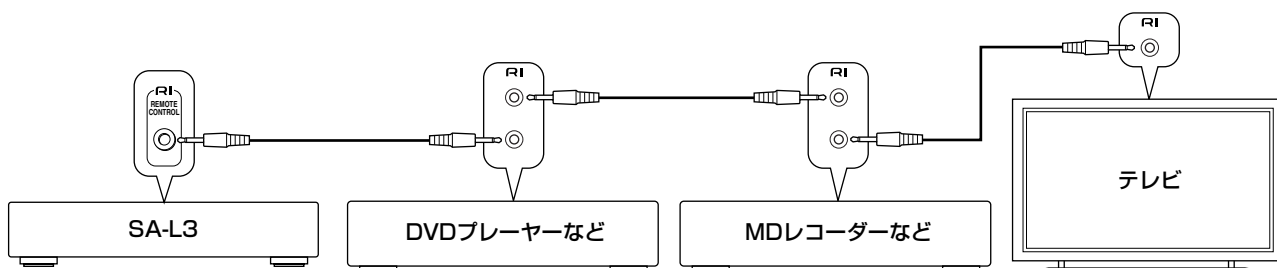
イラストにしたがって、接続および本機の設定をしてください。



1. テレビの音声出力（オーディオ出力右／左）端子と本機のTV音声入力（TV IN L/R）端子を接続する
2. モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
3. テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL INPUT (OPTICAL) TV端子を接続する

テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は、接続する必要はありません。

※ RI端子に他のオンキヨー製品をつないでいるときは、そのオンキヨー製品のRI端子とテレビのRIオーディオコントロール端子を接続してください。複数のオンキヨー製品をRI接続したいときも同様に、順送りにRI端子どうしをつないで、最後のRI端子とテレビのRIオーディオコントロール端子を接続してください。



故障？と思ったら

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキヨーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（SA-L3）」と、「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症 状	原 因	処 置	参照ページ
アンプ部	● 電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全になっている。 ● 主電源がOFFになっている。 ● 本機内蔵のマイクロコンピューターが、外部からのノイズに影響を受けた。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 ● 主電源をONにしてください。 ● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	21 21 21
	● 音が出ない。	● ミューティング機能が働いている。 ● 接続に問題がある。 ● ヘッドホンを接続している。	● リモコンのMUTINGを押して、ミューティングを解除してください。 ● 接続を点検してください。 ● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。	25 16~20 25
	● センタースピーカーから音が出ない、または、非常に小さい音しか出ない。	● スピーカーが正しく接続されていない。 ● サラウンドモードが『STEREO』か『ORCHESTRA』になっている。 ● 各スピーカーの音量バランス調整で、センタースピーカーの音量を小さくした。 ● センタースピーカーが存在しない設定になっている。 ● センタースピーカーがある設定をしているのにセンタースピーカーが接続されていない。	● スピーカー接続を確認してください。 ● 『STEREO』や『ORCHESTRA』のときはセンタースピーカーから音がでません。 ● センタースピーカーの音量を再調整してください。 ● スピーカー構成の設定で、センタースピーカーが存在する設定になっているか、確認してください。 ● センタースピーカーの接続を確認してください。あるいは、センタースピーカーの無い設定にしておってください。	19 30 29、34 28 28
	● 再生中の音声聞こえない。	● 別の入力選ばれている。	● 再生している機器の入力を選んでください。	22
	● リモコンのボタンも、本体のボタンもはたらかない。	● 電源の電圧の変動や、静電気などによって動作がおかしくなった。	● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	21
リモコン	● 本体のボタンははたらくが、リモコンのボタンははたらかない。	● リモコンが、操作しようとしている機能モードになっていない。 ● リモコンに乾電池が入っていないか、電池が消耗している。 ● リモコンの送信部が本体の受光部に向けられていない。 ● リモコンが本体から遠すぎる。	● リモコンを操作する前に、DVDまたはMDボタンを押してください。 ● 新しい乾電池をリモコンに入れてください。 ● リモコンの送信部を本体の受光部に向けて操作してください。 ● リモコンは、本体から5m以内のところで操作してください。	23 9 9 9
録音	● スピーカーから音声は聞こえるが、録音できない。	● DTSサラウンド音声を録音しようとしている。 ● デジタル入力（DIGITAL INPUT）に接続した機器の音声を録音しようとしている。	● DTSサラウンド音声は録音できません。 ● アナログ接続をしてください。	35 35

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、本体のLATE NIGHTを押しながら、 STANDBY/ONを押してください。『CLEAR』が本体表示部に表示されたのち、スタンバイ状態となり、工場出荷時の状態になります。ただし、お客様が設定した内容もすべて消えますので、改めて設定しなおしてください。

製品の故障により、正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については、保証対象にはなりませんので大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

主な仕様

■ アンプ部

定格出力

全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）

28W 6 Ω 1kHz (EIAJ)

22W 6 Ω 1kHz、全高調波歪率0.6%

ダイナミックパワー（左右フロントチャンネルのみ駆動時）

6 Ω 26W $\times$ 2

8 Ω 22W $\times$ 2

全高調波ひずみ率：定格出力時で0.6%

混変調ひずみ率：定格出力時で0.6%

ダンピングファクター：8 Ω 負荷時で40

入力感度/インピーダンス

DIGITAL INPUT (OPTICAL) DVD/CD、TV、VIDEO 2
：0.5Vp-p/75 Ω

LINE (DVD/CD、VIDEO 1、2、TUNER、TV、MD/CDR/TAPE
：150mV/50k Ω

定格出力/インピーダンス

REC OUT (VIDEO 1、MD/CDR/TAPE)：150mV/2.2k Ω

SUB WOOFER PRE OUT：1V/2.2k Ω

周波数特性：10～70kHz $\pm$ 1.5dB

アコースティックコントロール 1：+6dB（40Hz時）
2：+10dB（40Hz時）
+7dB（10kHz時）

SN比：100dB（IHF）

ミュート： $-\infty$ dB

■ 一般仕様

使用電源：AC 100V、50/60Hz

消費電力：80W

待機電力：1.3W

外形寸法：435（幅） $\times$ 81（高さ） $\times$ 377（奥行き）mm

質量：6.1kg

■ リモコン RC-500S

方式：赤外線

信号到達距離：約5m

使用電池：単3型（1.5V）乾電池2個

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われる場合があります。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（S A - L 3）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター 受付 9:30～17:30 (土日祝、弊社休日除く)
	■カタログのご請求、製品についてのご相談
	*e-mail: ホームシアター/オーディオ製品 → customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品 → mmcadmin@onkyo.co.jp
	*TEL: ナビダイヤル 0570-01-8111 (全国どこからでも市内料金で通話いただけます) または 072-831-8111 (携帯電話、PHSから) へどうぞ。
	*FAX: 072-831-8124 *はがき: 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1 オンキヨー株式会社 カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ → <http://www.onkyo.co.jp>

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ → <http://www.e-onkyo.com>

修理窓口 修理のご依頼は、取扱説明書の「故障かな?と思ったときは」または「故障?と思ったときは」の項目をご確認のうえ
ご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

北海道地区	神奈川地区
札幌サービスステーション TEL 011-747-6612 FAX 011-747-6619 〒001-0028 札幌市北区北28条西5-1-28 トーシン北28条ビル	横浜サービスステーション TEL 045-322-9342 FAX 045-312-6603 〒220-0072 横浜市西区浅間町1-13 共益ビル5F
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	岐阜・静岡・愛知・三重地区
仙台サービスステーション TEL 022-297-0571 FAX 022-257-7330 〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5 第二丸昌ビル1F	名古屋サービスステーション TEL 052-772-1229 FAX 052-772-1331 〒465-0013 名古屋市中区東区社口1丁目1001番
茨城・栃木地区	富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区
宇都宮サービスステーション TEL 028-634-4307 FAX 028-634-4308 〒320-0831 栃木県宇都宮市新町2-7-7	大阪サービスセンター TEL 06-6576-7620 FAX 06-6576-7604 〒552-0013 大阪市港区福崎3丁目1番148号
群馬・埼玉・新潟地区	鳥取・島根・岡山・広島・山口(下関を除く)地区
大宮サービスステーション TEL 048-651-8612 FAX 048-651-9137 〒330-0034 埼玉県さいたま市土呂町2-29-2 高安ビル1F	広島サービスステーション TEL 082-262-3315 FAX 082-262-6571 〒732-0057 広島市東区二葉の里2-8-28
千葉・東京(23区)地区	徳島・香川・愛媛・高知地区
東京サービスセンター TEL 03-3861-8121 FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル	高松サービスステーション TEL 087-868-5662 FAX 087-868-5672 〒760-0079 高松市松縄町44-8 西原ビル1F
東京(23区を除く)・山梨・長野地区	山口(下関)・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区
八王子サービスステーション TEL 0426-32-8030 FAX 0426-36-9312 〒192-0914 東京都八王子市片倉町358番地	福岡サービスステーション TEL 092-418-1357 FAX 092-418-1358 〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-8-19 みなみビル202
オンキヨーサービス認定店 (オンキヨー製品の修理を委託しているサービス認定店です。)	
静岡サービス認定店 TEL 0543-46-6502 FAX 0543-46-6502 〒424-0063 静岡県清水市能島171-15	熊本サービス認定店 TEL 096-364-1475 FAX 096-364-1475 〒862-0970 熊本県熊本市渡鹿7-15-18
北陸サービス認定店 TEL 0776-27-1868 FAX 0776-27-1768 〒910-0001 福井県福井市大願寺3-5-9	沖縄サービス認定店 TEL 098-876-9195 FAX 098-876-9195 〒901-2104 沖縄県浦添市当山558番地の8 キャッスルサイド浦添102号
岡山サービス認定店 TEL 086-274-5840 FAX 086-274-5840 〒703-8271 岡山県岡山市円山13	

2001年12月現在 お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031G

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

購入年月日： 年 月 日

ご購入店名： _____

Tel. () _____

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社 大阪府寝屋川市日新町2-1 〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：

お買い上げの販売店もしくはサービス網一覧表記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。

●東京サービスセンター ☎ 03(3861)8121 ●大阪サービスセンター ☎ 06(6576)7620

SN 29343334



Printed in Malaysia
W0205-1